

令和6年2月18日(日) 施行

第213回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解答

第1問

1	間接材料費	2	間接労務費	3	直接労務費
4	直接材料費	5	間接経費		

第2問

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	材 料	480,000	現 金	480,000
2	仕 掛 品	504,000	賃 金	624,000
	製 造 間 接 費	120,000		
3	製 造 間 接 費	185,000	電 力 料	185,000
4	製 造 間 接 費	340,000	賃 金	340,000
5	仕 掛 品	830,000	製 造 間 接 費	830,000
6	当 座 預 金	2,800,000	売 上	2,800,000
	発 送 費	5,000	現 金	5,000
	売 上 原 価	2,240,000	製 品	2,240,000

第3問

直接材料費

月初仕掛品	？ 個	¥ 65,600	当月完成品	4,870 個	(¥ 2,288,900)
当月投入	？ 個	¥ 2,307,900	月末仕掛品	？ 個	(¥ 84,600)

加工費

月初仕掛品	？ 個	¥ 34,070	当月完成品	4,870 個	(¥ 3,165,500)
当月投入	？ 個	¥ 3,209,430	月末仕掛品	？ 個	(¥ 78,000)

第4問

①	ウ	②	イ	③	エ	④	オ	⑤	ア
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

第5問

原価計算表

(単位：円)

指図書 摘要	#22	#23	#24	合計
月初仕掛品原価	(512,500)	—	—	(512,500)
直接材料費	(61,200)	(180,000)	(204,000)	(445,200)
直接労務費	(73,600)	(193,200)	(55,200)	322,000
製造間接費	(128,800)	(338,100)	(96,600)	563,500
合計	(776,100)	(711,300)	(355,800)	(1,843,200)
備考	完成	完成	仕掛中	

令和6年2月18日（日）施行

第213回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解説

第1問

1. 製紙工場で直接工が着用する作業服の金額は、製品の製造に直接かかる材料費ではないため、**間接材料費**となる。
2. 製紙工場で直接工が材料の運搬作業に従事した時間に対する賃金消費額は、製品の製造に直接携わる工員の賃金ではないため、**間接労務費**となる。
3. 製紙工場で直接工が加工作業に従事した時間に対する賃金消費額は、製品の製造に直接携わる工員の賃金となるため、**直接労務費**となる。
4. 製紙工場で製造工程に投入された主要材料の消費額は、製品の製造に直接かかる直接材料費となるため、**直接材料費**となる。
5. 製紙工場で材料を保管する倉庫の賃借料は、製品の製造に直接かかる経費ではないため、**間接経費**となる。

第2問

1. 素材 80 本を @ ¥6,000 で購入した場合、材料勘定を用いて処理をする。

$$\begin{aligned} \text{素材の購入原価} &= @ ¥6,000 \times 80 \text{ 本} \\ &= ¥480,000 \end{aligned}$$

代金 ¥480,000 は他店振出しの小切手で支払ったため、簿記上は現金勘定を用いて処理をする。

2. 当月に直接工が段取作業に従事した 20 時間と組立作業に従事した 400 時間は、直接労務費となり、賃金勘定から仕掛品勘定へ振替える処理をする。又、間接作業に従事した 100 時間は、間接労務費となり、賃金勘定から製造間接費勘定へ振替える処理をする。

$$\begin{aligned} \text{直接労務費} &= (\text{段取 } 20 \text{ 時間} + \text{組立作業 } 400 \text{ 時間}) \times \text{実際消費賃率} @ ¥1,200 \\ &= ¥504,000 \rightarrow \text{仕掛品勘定へ} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{間接労務費} &= \text{間接作業 } 100 \text{ 時間} \times \text{実際消費賃率} @ ¥1,200 \\ &= ¥120,000 \rightarrow \text{製造間接費勘定へ} \end{aligned}$$

3. 当月の電力料を製造間接費に計上したとあるので、測定額 ¥185,000 を電力料勘定から製造間接費勘定へ振替える処理をする。

4. 間接工の賃金消費額は、間接労務費となる。よって、当月消費額を賃金勘定から製造間接費勘定へ振替える処理をする。

賃金（間接工）

当月賃金支払額 ¥360,000	前月末払額 ¥50,000
	当月消費額 ¥???
当月未払額 ¥30,000	

$$\begin{aligned} \text{当月消費額} &= \text{当月賃金支払額} + \text{当月未払額} - \text{前月末払額} \\ &= ¥360,000 + ¥30,000 - ¥50,000 \\ &= ¥340,000 \rightarrow \text{製造間接費勘定へ} \end{aligned}$$

5. 当月の製造間接費実際発生額 ¥830,000 を製品に配賦した場合は、製造間接費勘定から仕掛品勘定へ振替える処理をする。

6. 完成し倉庫で保管していた製品を¥2,800,000で顧客に引き渡したとあるので、売上勘定を用いて処理をし、代金¥2,800,000は先方振出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れたので、当座預金勘定を用いて処理をする。

当方負担の発送費¥5,000を現金で支払ったので、発送費勘定と現金勘定を用いて処理をする。

又、完成し倉庫で保管していた製品を顧客に引き渡した場合、製造原価を製品勘定から売上原価勘定へ振替える処理をする。売価は製造原価の125%であるため、製造原価の計算は以下の通りである。

$$\begin{aligned} \text{製造原価} &= \text{売価} \div 125\% \\ &= ¥2,800,000 \div 1.25 \\ &= ¥2,240,000 \end{aligned}$$

第3問

月末仕掛品原価と当月完成品原価を求める。材料はすべて工程の始点で投入 月末仕掛品の評価は平均法

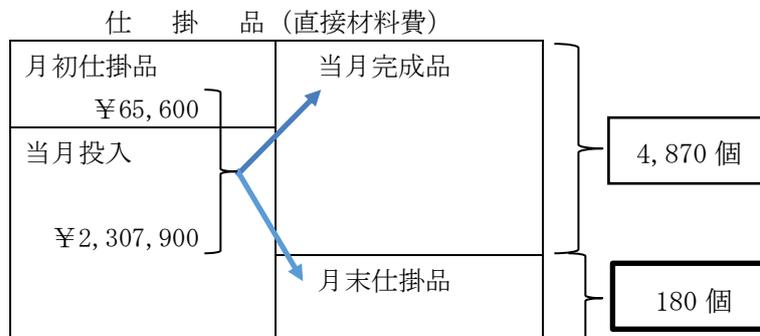
【原価計算表による解説】

原価計算表					単位：円
	数 量	直接材料費	換算量	加工費	合 計
月初仕掛品	150 個	65,600	60 個	34,070	99,670
当 月 投 入	4,900 個	2,307,900	4,930 個	3,209,430	5,517,330
合 計	5,050 個	2,373,500	4,990 個	3,243,500	5,617,000
月末仕掛品	180 個	① 84,600	120 個	② 78,000	162,600
当 月 完 成 品	4,870 個	2,288,900	4,870 個	3,165,500	5,454,400

① $¥2,373,500 \times 180 \text{ 個} \div 5,050 \text{ 個} = ¥84,600$

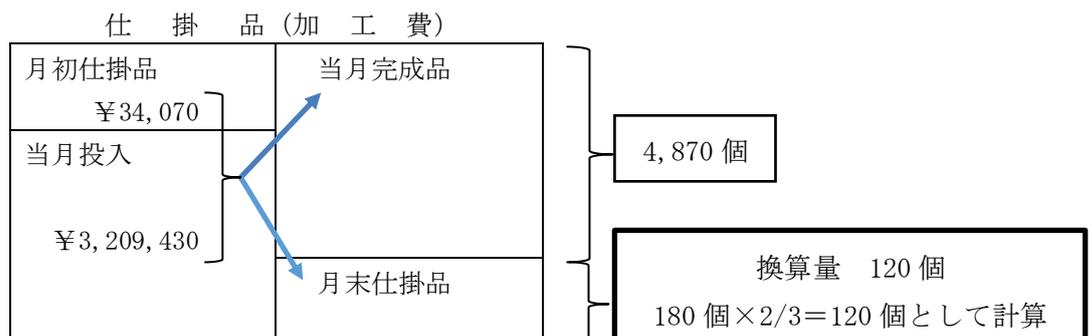
② $¥3,243,500 \times 120 \text{ 個} \div 4,990 \text{ 個} = ¥78,000$

【ボックス図による解説】



月末仕掛品原価： $(¥65,600 + ¥2,307,900) \div (4,870 \text{ 個} + 180 \text{ 個}) \times 180 \text{ 個} = ¥84,600$

当月完成品原価： $(¥65,600 + ¥2,307,900) \div (4,870 \text{ 個} + 180 \text{ 個}) \times 4,870 \text{ 個} = ¥2,288,900$



月末仕掛品原価： $(¥34,070 + ¥3,209,430) \div (4,870 \text{ 個} + 120 \text{ 個}) \times 120 \text{ 個} = ¥78,000$

当月完成品原価： $(¥34,070 + ¥3,209,430) \div (4,870 \text{ 個} + 120 \text{ 個}) \times 4,870 \text{ 個} = ¥3,165,500$

第4問

- ア. 当月の顧客に対する製品引き渡し額
→ 製品勘定から売上原価勘定への振替えをあらわす。
- イ. 当月の修繕工に対する賃金消費額
→ 賃金勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわす。
- ウ. 当月の買入部品消費額
→ 材料勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわす。
- エ. 当月の製造間接費配賦額
→ 製造間接費勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわす。
- オ. 当月の完成品原価
→ 仕掛品勘定から製品勘定への振替えをあらわす。

- ① 材料勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわしている。

これは、材料の消費額のうち直接材料費を意味している。よって、当月の買入部品消費額をあらわしていることになるため、 **ウ** となる。

(借) 仕 掛 品	(貸) 材 料
-----------	---------

- ② 賃金勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわしている。

これは、賃金の消費額のうち間接労務費を意味している。よって、当月の修繕工に対する賃金消費額をあらわしていることになるため、 **イ** となる。

(借) 製 造 間 接 費	(貸) 賃 金
---------------	---------

- ③ 製造間接費勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわしている。

よって、当月の製造間接費配賦額をあらわしていることになるため、 **エ** となる。

(借) 仕 掛 品	(貸) 製 造 間 接 費
-----------	---------------

- ④ 仕掛品勘定から製品勘定への振替えをあらわしている。

これは、当月に完成した製品の原価の振替えを意味している。よって、当月の完成品原価をあらわしていることになるため、 **オ** となる。

(借) 製 品	(貸) 仕 掛 品
---------	-----------

- ⑤ 製品勘定から売上原価勘定への振替えをあらわしている。

これは、製品の販売時に、製品の原価を売上原価勘定に振替えたことを意味している。よって、当月の顧客に対する製品引き渡し額をあらわしていることになるため、 **ア** となる。

(借) 売 上 原 価	(貸) 製 品
-------------	---------

第5問

材料元帳

(移動平均法)

S材料

(単位:円)

日付	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
5	1 前月繰越	140	(2,000)	(280,000)				140	(2,000)	(280,000)
	7 出庫(#23)				90	(2,000)	(180,000)	(50)	(2,000)	(100,000)
	9 仕入	200	(250)	410,000				(250)	(2,040)	(510,000)
	11 出庫(#22)				30	(2,040)	(61,200)	(220)	(2,040)	(448,800)
	17 出庫(#24)				100	(2,040)	(204,000)	(120)	(2,040)	(244,800)
	31 次月繰越				(120)	(2,040)	(244,800)			
		(340)		(690,000)	(340)		(690,000)			

製造指図書#22

<前月より製造着手 当月完成>

月初仕掛品原価

①【問題文2】当月の月初有高仕掛品(#22): ¥512,500

直接材料費

②【問題文4】材料元帳の作成より 5/11に出庫した金額 ¥61,200

直接労務費

 ③【原価計算表】直接労務費合計、【問題文5】当月の直接作業時間の内訳より
 $¥322,000 \div (80時間 + 210時間 + 60時間) \times 80時間 = ¥73,600$

製造間接費

 ④【原価計算表】製造間接費合計、【問題文6】直接労務費を基準として実際発生額を
 各製造指図書に配賦しているため、【解答用紙】当月の直接労務費より
 $¥563,500 \div ¥322,000 \times ¥73,600 = ¥128,800$

合計

①¥512,500 + ②¥61,200 + ③¥73,600 + ④¥128,800 = ¥776,100

製造指図書#23

<当月より製造着手 当月完成>

直接材料費

①【問題文4】材料元帳の作成より 5/7に出庫した金額 ¥180,000

直接労務費

 ②【原価計算表】直接労務費合計、【問題文5】当月の直接作業時間の内訳より
 $¥322,000 \div (80時間 + 210時間 + 60時間) \times 210時間 = ¥193,200$

製造間接費

 ③【原価計算表】製造間接費合計、【問題文6】直接労務費を基準として実際発生額を
 各製造指図書に配賦しているため、【解答用紙】当月の直接労務費より
 $¥563,500 \div ¥322,000 \times ¥193,200 = ¥338,100$

合計

①¥180,000 + ②¥193,200 + ③¥338,100 = ¥711,300

製造指図書#24

<当月より製造着手 当月仕掛中>

直接材料費

①【問題文4】材料元帳の作成より 5/17に出庫した金額 ¥204,000

直接労務費

 ②【原価計算表】直接労務費合計、【問題文5】当月の直接作業時間の内訳より
 $¥322,000 \div (80時間 + 210時間 + 60時間) \times 60時間 = ¥55,200$

製造間接費

 ③【原価計算表】製造間接費合計、【問題文6】直接労務費を基準として実際発生額を
 各製造指図書に配賦しているため、【解答用紙】当月の直接労務費より
 $¥563,500 \div ¥322,000 \times ¥55,200 = ¥96,600$

合計

①¥204,000 + ②¥55,200 + ③¥96,600 = ¥355,800